

## アルタイ諸言語における補助動詞「みる」についての覚書<sup>1</sup> —とくに「経験」の意味について—

大崎紀子

(京都大学文学研究科附属ユーラシア文化研究センター)

### 1. はじめに

Masica(1971: 146,147)によれば、チュルク語、モンゴル語などのアルタイ諸言語や、インド・アーリア語、ドラヴィダ語、さらには朝鮮語、日本語を含む広い地域で、「見る」という視覚動詞を起源とする補助動詞が「試行」の意味を表す。チュルク語でも、トルクメン語、タタール語、カザフ語、キルギス語、ウズベク語、ウイグル語、ハカス語、サハ語など、*kör-/gör-*、*qara-*、*baq-*をはじめとする視覚動詞、またはこれらの同源動詞が「試行」の意味を表す補助動詞として用いられている:

- (1) a. Kyrg. *Jaysan karandaš menen sürot tart-ïp kör-dü.*  
PN pencil with picture draw-CVB AUX-PST.3  
'Jaisan tried to draw a picture with his pencil.' (Tokubek uulu 2009: 185)
- b. Uygh. *Qini, šeir-iñiz-ni oqu-p beq-iñ, biz bir ayla-p baq-ayli.*  
INTERJ poem-POSS.2SG-ACC read-CVB look-IMP.2SG 1PL 1 listen-CVB AUX-VOL.1PL  
'Please [try to] read it, we will try to listen to it.' (Tömür 1987: 389, Ibrahim 1995: 126)
- c. Turkm. *Yaz-ïp gör-di*  
write-CVB see-PST.3  
'He tried to write.' (Clark 1988: 306)

この「試行」の意味に加え、Ohsaki & Akmatallieva(2018)では、キルギス語の補助動詞 *kör-*に「経験」の意味を表す用法があることが指摘された。そこで本発表では、キルギス語などのチュルク語、モンゴル語などのアルタイ諸言語のほか、朝鮮語、日本語などにおける視覚動詞起源の補助動詞と「経験」の意味について調べてみることにする。

### 2. キルギス語の補助動詞 *kör-*が「経験」の意味をもつこと (Ohsaki & Akmatallieva 2018)

#### 2.1 推量を表す V-COND *kerek* 「～するに違いない」

- (2) *Bul ooru menen ar bir adam ömür-ü-ndö bir jol-u*  
this sick with every person life-POSS.3-LOC 1 time-POSS.3
- a. *ooru-p kör-sö kerek*  
become.sick-CVB AUX-COND necessary  
「誰でも一生に一度はこの病気にかかったことがあるに違いない」(過去の推量)
- b. *ooru-sa kerek*  
become.sick-CVB necessary  
「誰でも一生に一度はこの病気にかかるに違いない」(現在の推量)

<sup>1</sup> この研究は、科学研究補助金・基盤研究(B)「混成言語」から見なおすユーラシアの諸言語—言語接触と言語形成の類型を探る—(研究代表者:藤代節)及び東京外国語大学 AA 研共同研究課題「チュルク諸語における膠着性の諸相—音韻・形態統語・意味の統合的研究—」の支援を受けている。

(2a)における補助動詞 *kör-*は、「経験」の意味を含みつつ過去の不特定時に動作が行われたことを表している。このことは、*V-(I)p kör-sö kerek* が *ömüründö* 「一生で」や *jašoosunda* 「人生で」という副詞句と非常に頻繁に共起することにも表れている。

注意すべき点として、*V-(I)p kör-sö kerek* における *V* が意志動詞の場合は、補助動詞 *kör-*には「過去の経験」と「試行」の二通りの解釈が成り立つ：

- (3) *Ar bir adam jašoo-su-nda azart oyun-dar-ï-n*  
 every person living-POSS.3-LOC gamble play-PL-POSS.3-ACC  
*oyno-p kör-sö kerek.*  
 play-CVB AUX-COND necessary

- A. 「誰でも人生でギャンブルをしたことがあるに違いない」(経験、過去の推量)  
 B. 「誰でも人生でギャンブルをしてみることに違いない」(試行、現在の推量)

いずれの解釈が優先するかは文脈による。例えば、次のような例では過去の解釈の方が優先する：

- (4) *Kirgizstan kalk-ï Kamçike-ni koldo-or-u-n biylik*  
 Kyrgyzstan people-POSS.3 PN-ACC support-PTCP-POSS.3-ACC authority  
*ilikte-p kör-sö kerek.*  
 investigate-CVB AUX-COND necessary

「キルギス国民がカムチケを応援することを政府が調べたに違いない／調べただろう」

## 2.2 過去経験の否定 *V-(I)p kör-gön èmes* 「～したことがない」

補助動詞 *kör-*の過去分詞形の否定は、以下の3つの形式で現れ、「～したことがない」という過去の経験の否定を表す：

- (5) a. *Bul ooru menen ooru-p kör-gön èmes-min.*  
 this disease with become.sick-CVB AUX-PTCP.PST NEG.PST-1SG  
 「私はこの病気にかかったことがない」  
 b. *Köz-ü öt-könçö dari iç-ip kör-gön jok.*  
 eye-POSS:3 pass-until medicine drink-CVB AUX-PTCP.PST non-existent  
 「彼は死ぬまで薬を飲んだことがなかった」  
 c. *Kiyna-l-ïp kör-bö-gön bay-lar*  
 bother-PASS-CVB AUX-NEG-PTCP.PST rich-PL  
 「苦しんだことのない金持ちたち」

過去分詞形-*GAn* は *anterior* もしくは *perfect* を表し「現在と関連のある過去の出来事を表す」(Johanson 2006: 44)。*anterior* は「経験」の意味を伴うことが多いので(Bybee et al. 1994: 62)、(5)の各例に見られる「経験」の意味は、補助動詞 *kör-*ではなく、-*GAn* によるものかも知れない。そこで次の2例を比較してみると、補助動詞 *kör-*は「経験」そのものを表すと言うよりも、過去の経験の不存在を強調しているように思われる：

- (6) a. *ooru-p kör-gön èmes-min.*  
 become.sick-CVB AUX-PTCP.PST NEG.PST-1SG  
 「私は病気にかかったことがない(一度も)」  
 b. *ooru-gan èmes-min.*  
 become.sick-PTCP.PST NEG.PST-1SG  
 「私は病気にかかったことがない」

さらにもう一例、検討する:

- (7) a. *Köz-ü öt-könčö dari ič-ip kör-gön jok.* (=5b)  
 eye-POSS.3 pass-until medicine drink-CVB AUX-PTCP.PST non-existent  
 「彼は死ぬまで薬を飲んだことがなかった(一生で一度も)」
- b. *Köz-ü öt-könčö dari ič-ken jok.*  
 eye-POSS.3 pass-until medicine drink-PTCP.PST non-existent  
 「彼は死ぬまで薬を飲んだことがなかった(少なくとも死ぬ直前の期間は)」

(7a,b)の違いは、二通りの説明が可能である:

- ①補助動詞 *kör-*が純粹に「経験」の意味を表している;  
 ②両者の意味の違いは補助動詞 *kör-*が過去の経験の不存在を強調する結果である。  
 しかし、次のような例を見ると、後者の説明の方が当てはまるように思われる:

- (8) *Sibir-de minday apaat bu-ga čeyin bol-up kör-gön èmes.*  
 Siberia-LOC like.this disaster this-DAT until become-CVB AUX-PTCP.PST NEG.PST.3  
 「シベリアでこのような災害が今まで起きたことはなかった」

### 3. モンゴル語の補助動詞 *üje-* (見る) が「経験」の意味をもつこと

バドマ(2011: 39)では、モンゴル語の補助動詞 *üje-*に「経験」の意味があると指摘されている:

- (9) a. *bi odu boltal-a ebedčile=jü üje=gsen ügei*  
 私 今まで 病気になる-CVB AUX-PTCP NEG  
 「私は今まで病気になったことがない」
- b. *suruly-a-du-ban küčirde=jü üje=gsen uday-a ügei*  
 勉強-DAT-REFL 困る-CVB AUX-PTCP 回 NEG  
 「勉強に困ったことがない」 (バドマ 2011: 39)

完了の形動詞形の否定という点でキルギス語と並行的であるだけでなく、非意志動詞に補助動詞 *üje-*が後続する場合、肯定文が成立しない点も共通する:

- (10) a. Mong. *\*ebedčile=jü üje=gsen uday-a bayi=n-a*  
 病気になる-CVB AUX-PTCP 回 ある-PRES  
 (\*病気になったことがある) (バドマ 2011: 39)
- b. Kyrg. *\*ooru-p kör-gön bar* (Cf. *ooru-gan bar* 「病気になったことがある」)  
 病気になる-CVB AUX-PTCP ある

### 4. 朝鮮語の補助動詞어 보다 (ㄱ poda ~てみる) と日本語、そしてキルギス語

生越(1991: 99)では朝鮮語の어 보다(ㄱ poda ~てみる)の用法が以下のようにまとめられている:

- (11) ①目的のためにある動作を試みる e.g.「応募してみる」「聞いてみる」「考えてみる」  
 ①'目的とする動作を実現する e.g.「淋しさを分け合ってみよう」「眠気を追い払ってみよう」  
 ①"ある動作の実行を強調する e.g.「帰ってみなさい(=帰りなさい)」「行ってみなくちや(=行かなくちや)」  
 [意志的な動作、特定の時における動作]
- ②ある動作を経験する e.g.「苦しんでみたことはない」「過去に恋愛してみた」  
 [無意志的な動作も可、ある期間内での動作]
- ③動作後の状態を確認する e.g.「家に入ってみると」「戻ってみると」  
 [無意志的な動作も可、自動詞]

①の用法は日本語と共通するが、①'や①"、そして②の用法は日本語にはない。③は条件節でもちいられる点、および無意志的な動作が主動詞であってもよい点で日本語と共通する。③は、日本語では「結果の状態を表す」（森田 1989）、「ある情報をもたらし、または結果を生み出すことになる動作を表す」（吉川 1975）、「事態出現への気づきを表す」（日本語記述文法研究会 2009）などと説明されているが、朝鮮語について生越(1991: 97)が述べている、「前の動詞の表す動作のほか、『その動作後の状態を確認する』というもう一つの動作も含まれている…（中略）…この場合の보다 *poda* は…本動詞に近い性格を持っているのではなかろうか」という指摘は、日本語にも当てはまるように思われる。

さらに、キルギス語との対照で言えば、①は共通し、①'や①"も、共起副動詞-A/y 形の動詞に補助動詞 *kör-*が後続した場合には主動詞の動作実行を強調するという類似の用法が見られる：

- (12) a. *Alis bol-o kör-üñüz!*  
distant become-CVB AUX-IMP.2SG  
「離れていてください」
- b. *Bul kat-ti eč kim-ge körsöt-ö kör-bö!*  
this letter-ACC anyone-DAT show-CVB AUX-NEG(IMP.2)  
「この手紙を誰にも見せるな」

また②の「経験」の意味は、主動詞が無意志的な動作でもよい点、不特定時の動作を表す点で共通するが、キルギス語ではごく限られた構文にしか現れない。そして③は、キルギス語でも *bayka-p kör-sö*「調べて/気づいてみると」、*oylo-p kör-sö*「考えてみると」という条件節がよく見られるが、収集した用例の中に非意志動詞が主動詞にくるものはなく、また、補助動詞ではなく本動詞だと考えても不自然ではない例が多い。

## 5. おわりに

### References

- Bybee, Joan, Revere Perkins, and William Pagliuca (1994). *The Evolution of Grammar*. Chicago and London: The University of Chicago Press.
- Clark, Larry (1998). *Turkmen reference grammar*. Turcologica; Bd. 34. Wiesbaden: Harrassowitz.
- Ibrahim, Ablahat (1995). *Meaning and Usage of Compound Verbs in Modern Uighur and Uzbek*. Doctoral dissertation, University of Washington.
- Johanson, Lars (1998). 'The structure of Turkic', in Lars Johanson and Éva Á. Csató (eds), *The Turkic Languages*. London, New York: Routledge, 30-66.
- Masica, Colin P. (1971). *Defining a linguistic area: South Asia*. London: University of Chicago Press.
- Ohsaki, Noriko and Jakshylyk Akmatalieva (2018). Volitionality and Auxiliary Verbs in Kyrgyz: The case of *kör-* and *jiber-*, International Symposium "Current Topics in Turkic Linguistics," Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, March 3, 2018.
- Tokubek uulu, Bakytbek (2009). *Learn the Kyrgyz Language: Connecting with People and Culture*. Bishkek.
- Tömür, Hämit (1987). *Hazirqi Zaman Uighur Tili Grammatikisi*. Beijing: Millatlar Našriyati.
- 生越直樹 (1991). 「朝鮮語어 보다 *o poda*, 고 보다 *ko poda* と日本語「てみる」」『日本語学』12月号, pp.90-101. 明治書院.
- 日本語記述文法研究会 (編) (2009) 『現代日本語文法 2』くろしお出版
- バドマ (巴徳瑪) (2011). 「日本語とモンゴル語の補助動詞の対照研究—「～てみる」と「-cvb üje-」についての一考察—」『日本モンゴル学会紀要』第 41 号, pp. 31-41. 日本モンゴル学会.
- 森田良行 (1989). 『基礎日本語辞典』角川書店.
- 吉川武時 (1975). 「「～てみる」の意味とその実現する条件」『日本語学校論集』2号. 東京外国語大学外国語学部附属日本語学校, pp.36-51.